

調査結果の概要と分析、改善策について

丹波市立山南中学校

【分析にあたって】

4月18日(火)を中心に実施された本年度の全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。本校は、国語・数学・英語ともに全国平均を上回る良好な結果でした。統合前から継続して取り組む「ユニバーサルデザイン(UD)化を核とした生徒の主体的な学びを大切に授業づくり」により、生徒にねばり強く学習課題に取り組む姿勢が身につけてきている成果と考えられます。

しかし、本調査で測ることができるのは学力の一部でしかありません。また、比較的規模の小さい本校では、生徒1人の正誤によって結果が大きく変わってきます。したがって、正答率等の数値のみにとらわれるのではなく、生徒の学力の傾向を適切にとらえ、苦手な部分を補い、得意な部分をさらに伸ばす教育活動を引き続きすすめていくため、この調査結果を活用したいと考えます。

【調査概要】

- 実施日 令和5年4月18日(火)
- 実施教科 国語、数学、英語(話すこと調査は5月10日)
- 対象学年 第3学年

【質問紙調査から】



<挑戦心・自己肯定感・自己有用感>

質問事項	肯定的回答	全国との差
将来の夢や目標を持っていますか	62.8%	-3.5p
人が困っているとき進んで助けていますか	84.6%	-3.5p
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	96.1%	+1.5p

・「人の役に立ちたい」という思いを行動につなげる力を育むことで、自己有用感を高めます。その力をもとにして挑戦心を育む取組を充実させたいと考えます。

<学習習慣>

質問事項	肯定的回答	全国との差
家で自分で計画を立てて勉強していますか	57.7%	+2.7p
質問事項	1~2時間 2時間以上	全国との差
平日にどのくらい勉強していますか	57.6% 16.6%	-8.2p -17.1p
休日にどのくらい勉強していますか	64.1% 28.2%	-11.2p -11.8p

・平日、休日ともに学習時間は決して多くなく、1時間以上学習する生徒は全国平均を大きく下回っています。しかしながら、良好な調査結果から、学習内容の定着のためには、学習時間の長さより学習に向かう姿勢や自分にあった学習方法の工夫が、より重要であると考えます。

<主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善>

質問事項	肯定的回答	全国との差
自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	64.1%	+2.0p
自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	69.2%	-5.7p

・自分の考えを他者に伝える際にうまく伝わるように工夫しようとする姿勢が見られます。授業のUD化を生かし、個に応じた指導をすすめることで、さらに力を伸ばすことができると考えます。

<学習課題に取り組む姿勢>

質問事項	肯定的回答	全国との差
今回の調査問題には解答を文章で書く問題(国)、言葉や式で説明する問題(数)がありました。最後まで解答しようとしたか。	国 84.6% 数 58.4%	+10.3p +1.3p

・課題に対してねばり強く取り組むことができている。この姿勢は本校生徒の強みであり、すべての学びの基盤であると考えます。

【各教科の結果から】

※本文中の「p」は本校正答率と全国平均の差の単位
本校 80.5% 全国 72.5% のとき 差は「+8.0p」と表記

<国語> ※問題文、解答は文部科学省 HP を参照

(問題2四) 全国との差：+13.0p
問題の概要：自分がこれからどのように本を読んでいきたいかについて、読んだ文章を参考にし、知識や経験に触れながら書く
正答の条件：これから自分がどのように本を読んでいきたいか、また、自分の読書に関する経験や知識に触れながら書いている

本問に限らず、記述問題は総じて正答率が全国平均を大きく上回っています。これは、主題をまとめる活動をしたり、条件付き作文を書いたりする等、書く活動を充実させていることの成果と考えます。

(問題4二) 全国との差：-5.3p
問題の概要：原文の中の語句に対応する言葉を現代語で書かれた文章から抜き出す
正答：現代語訳ととも、まことに

古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容を捉えることができるかどうかをみる問題です。すべての設問の中で最も全国平均を下回っています。古典は、各学年で古文と漢文を学習しますが、継続して学習する機会が少ないことが要因と考えられます。日ごろから、古典以外の単元においても、関連付けて学習するなど、折に触れて学び直しの機会を設ける必要があります。

<数学> ※問題文、解答は文部科学省 HP を参照

(問題7(1)) 全国との差：+21.1p
問題：1961年~1975年の四分位範囲を求める
正答：10

例年、四分位範囲の意味を理解しているかどうかをみる問題です。新学習指導要領になり新たに設定された単元「データの活用」に関する設問ですが、本調査の実施直前(第2学年3学期)に学習したこともあり、定着が見られます。しかしながら、学習の機会が限られている内容ですので、確実な定着に向けては、適宜学び直したり、他の単元と関連付けて学習したりすることが大切になります。

(問題9(1)) 全国との差：-4.5p
問題：2つの直線BCと直線AEが平行であることを、三角形の合同を基にして、同位角または錯角が等しいことを示すことで証明する
正答の条件：∠BCA=∠EAC、BC//AEとそれぞれの根拠を記述し、証明している

すべての設問の中で最も正答率が低く、無解答率(22.4%)が高くなっています。数学的な表現を用いて事柄が成り立つ理由を説明することは例年課題となっており、その解決を図るために数学的な表現を用いて思考させたり説明させたりする活動を充実することが求められます。

<英語> ※問題文、解答は文部科学省 HP を参照

(問題5(2)) 全国との差：+10.5p
問題の概要：事実や考えが書かれた英文を読み、考えを表している英文を選択する
正答：4 詳細はHP参照

「事実」と「考え」を区別して読むことができるかどうかをみる問題です。全国平均を上回り、無解答率は0%です。自分の考えやテーマに沿ってまとめた英文を読んだり書いたりする場面を単元ごとに設け、文章の構成を意識しながら読むことや書くことの指導をしてきた成果だと考えます。

(問題10) 全国との差：-0.8p
問題の概要：学校生活(行事や部活動など)の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く
正答の条件：省略 詳細はHP参照

事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる問題です。全国平均との差は小さいですが、すべての設問の中で最も正答率は低くなっています。問題文をしっかりと読み、条件を満たして書くこと、目的、場面、状況に応じて適切な表現や文法を用いて表現することに課題が見られます。

【今後の取組(指導改善のポイント等)】

<各教科及び教育活動全般を通して>

- 国語・数学・英語の課題や成果をすべての教職員で共有し、全教科の授業改善を図ります。また、教科の枠を超えたすべての教員が参加する授業研修会を行い、各教員が取り組む課題を明確にします。
- 特に「書くこと」については、すべての教科で「自分の考えを整理する」「根拠を明確にする」「目的や状況に応じて適切な表現を用いる」等を踏まえた授業を展開し、表現力の育成を図ります。
- 定期考査に向けた学習の中で、生徒自身が学習課題を設定し、「いつ」「何を」「どのくらい」学習するのかを決め、主体的・計画的に学習に取り組む「学びのマネジメント力」の育成をすすめます。
- 学校行事や日常の生徒会活動の中で、生徒が主体的に活動する機会を充実します。自己肯定感、自己有用感を育むとともに、安心安全な学校づくりをすすめます。